



※「漱石写真帖」より



▲フロックコート姿の漱石

〈7〉漱石の略式結婚

明治29年(1896)6月8日、池田停車場(現上熊本駅)に中根鏡子とその父、重一が降り立ちました。東京から年老いたお手伝いさんを1人連れての嫁入りです。

駅のプラットホームには、宿屋の研屋からの迎えしか見えず、漱石の姿は改札口にも見えません。どうしたことかと辺りを見回すと、新聞を片手にフロックコート(注1)の正装で悠然と待合室から出てきたのが漱石でした。

鏡子は『漱石の思い出』(角川文庫)に、結婚式を挙げたのは10日だったと回想しています。しかし、「中根去る八日着昨九日結婚略式執行致候」と述べた正岡子規宛ての手紙をはじめとして、ほかに2通、6月10日付の手紙で漱石は友人に結婚の報告をしています。『漱石の思い出』が出版されたのは、昭和4年、漱石の13回忌を終えた後のことです。やはり漱石が書いた当時の手紙を重視すべきでしょう。「衣更へて京より嫁を貰ひけり」という俳句を子規に送っています。新生活への弾むような気持ちが感じられる句です。

その結婚式について、鏡子は「裏長屋式(注2)の珍な結婚」と呼んでいます。漱石は冬物のフロックコート、鏡子は東京から持参した夏の振り袖、父の重一は普通の背広姿。仲人やお酌などすべてをこなしたのが東京から連れてきた年老いたお手伝いさんでした。漱石が雇っていた婆やと車夫とが、台所で働いたりお客になつたりしました。謡一つもなく、式は終わってしまいました。まさに「略式」の結婚式でした。仕出し屋に支払ったのは、総額7円50銭。これが漱石の結婚式費用でした。

三三九度(注3)をするとき、三つ組みの盃がひとつ欠けていたことを、のちに鏡子が語るのを聞いた漱石は「けしからん話だと思って

きいていたら、俺たちのことか。道理で喧嘩ばかりして、とかく夫婦仲が円満に行かないわけがわかった」(『漱石の思い出』)と、面白がったそうです。

東京の生活とは打って変わった、田舎の生活にとまどった鏡子でしたが、何よりも困ったのは朝早く起きられないことでした。お手伝いさんを東京に帰してからは、漱石に朝ご飯も食べさせず学校に出すこともたびたびでした。無理をして起きると1日中ぼんやりとして、失敗ばかりする鏡子に漱石は「おまえはオタンチンノパレオラガス(注4)だよ」とからかいます。

新婚早々「俺は学者で勉強しなければならないのだから、おまえになんかかまってはられない。それは承知してもらいたい」と漱石は宣告しました。しかし、鏡子は、大変短気で「家庭の暴君」であった自分の父と比較して「夏目はゆったりしていて、すべてのことについて公平だし」「なるほど先生などというものは修養のできたものだ」(『漱石の思い出』)と思ったそうです。漱石満29歳、鏡子19歳の新婚生活の始まりでした。

注1) 男子の屋間の礼服。上着はダブルで膝丈までである。

注2) 裏通りに建っている粗末な長屋のようにみすぼらしいこと。

注3) 結婚式のときに新郎新婦が杯をやりとりする儀式。

注4) 嘲りの俗語「おたんちん」を東ローマ帝国最後の皇帝の名に掛けた洒落。

(くまもと漱石倶楽部会員・九州ルーテル学院大学非常勤講師 村田 由美)
※左上のイラストは夏目漱石記念年イメージキャラクターです。

くまもと俳句ポスト入賞作品紹介 (文化振興課 ☎096-328-2039)

入選 漱石の 所縁の駅舎 風薫る
(6月末開函) (熊本市 森本 尚子さん)

明治29年(1896)、夏目漱石は旧制第五高等学校に赴任するため池田駅(現在の熊本駅)に降り立ちました。長年親しまれた二代目の駅舎が今も隣に移築されて当時の姿を残しています。駅前には漱石の銅像が建ち、前の通りも「わが輩通り」と名付けられています。まさに駅舎の歴史に触れながら匂うようなすがすがしい風を感じている様子がうかがえます。

熊本城マラソン2016

川柳&エピソード大募集! ~いま、伝えたいこと~

募集期間 11月1日~30日(必着)

熊本城マラソンの第5回大会、および金栗記念熊日30キロロードレース第60回大会を記念して、川柳・エピソードを募集します。熊本城マラソンにかける熱い想いを、それぞれの言葉で表現してみませんか。たくさんのご応募をお待ちしています。



川柳部門

題材 マラソンにちなんだ内容の作品
(ランナーを応援するもの、ランナーの心情を詠んだもの、応援にかける想いなど)
形式 5、7、5形式の川柳を前提とする
応募数 1人3句まで(用紙1枚につき1句)

エピソード部門

題材 「5」または「60」が関係するエピソード
(作品例) ・熊本城マラソンに向け、毎月60キロ走ることを目標に頑張っている
・ランナーに楽しく走ってもらいたくて、毎年5キロ地点付近でこんな沿道応援を行っています など
形式 原稿用紙1枚(400字)程度
応募数 1人1作品まで

共通事項

対象 どなたでも
申込み 専用の応募用紙に、作品と必要事項を書いて、持参か郵送で
〒860-0007中央区古京町1-1熊本城マラソン実行委員会事務局 川柳&エピソード大募集!係へ
※専用応募用紙は市役所、区役所総合案内、総合出張所にあります。熊本城マラソンホームページにも掲載しています。
表彰 最優秀賞各部門1作品、優秀賞各部門2作品、佳作各部門3作品。入賞された方には賞状・記念品を贈呈します。
各部門の最優秀賞に輝いた作品は、熊本城マラソン2016前夜祭で表彰します。

詳しくは、熊本城マラソンホームページ(<http://www.kumamotojyo-marathon.jp/>)へ

(熊本城マラソン実行委員会事務局 ☎096-328-2373)

熊本市コールセンター

休日在宅当番医、イベント情報、区の窓口業務など、いつでもお尋ねください

午前8時~午後9時(年中無休)

ひごまるコール ☎096-334-1500

FAX 096-370-2002 電子メールアドレス 1500@higomaru-call.jp

ホームページ

配布に関するお問い合わせ

市政だより配布センター

0120-887-778

午前8時~午後8時
(土曜・日曜日、祝日は除く)

今月のイチオシ

絶賛放送中



TKU「英太郎のかたらんね」内コーナー
「市とるね!? マナブくん」
毎週水曜日 午前10時半頃~

乾燥するこの季節に
多くなるのが火災! 11月4日の放送は
火災予防についてまなぶ~。
ぜひ見てはいよ~。

再生紙を使用しています